

教育目標	○深く考えて行動する子(めあてをもち、自ら学ぶ子) ◎思いやりのある子(心優しく、助け合う子) ○健康で明るい子(命の大切さがわかる、たくましい子)
めざす学校像	○子供の学ぶ意欲と喜びのあふれる学校 ○いじめのない、子供が安心して通える学校 ○子供と地域社会を結ぶ学校 ○学びと体力向上の喜びを与える教師
めざす教師像	○現状把握を的確に行い子供の心に寄り添う教師 ○けじめある指導を適切に行う教師 ○誠意をもって外部対応できる教師

努力指標・成果指標の数値は4段階評定です。

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標(中間)	努力指標(最終)	成果指標(中間)	成果指標(最終)	今後の課題	学校関係者評価記入欄
知	確かな学力の育成	基礎基本の定着	習熟度指導・個別指導の充実、ICT機器の積極的な活用、学習習熟度を高めるための家庭学習の計画的な提示、学習規律の確立	3	3	3	3	・基礎基本の学力は今後も繰り返し毎日指導していき、定着を図る必要がある。タブレット型パソコンの活用方法については、計画的に各教科でどのように活用していくかを学年で共通理解し、実践していく。また、活用していく中で書く学習が減らないような工夫も必要である。	・ICT機器を効果的に授業や宿題でも取り入れている様子が見られた。基礎基本の学力の定着については今後も継続して指導して欲しい。来年度からも、学年・学級で日常的にICT機器を取り入れながら、更なる基礎基本の学力が向上するように工夫して欲しい。
		読解力の向上に基づく言語能力の育成	計画的な読書活動、教員による読み聞かせや一人読書と本紹介、言語能力育成を視点にした日常的な授業改善	3	3	3	4	・朝読書や業間の一人読書は定着してきているが、タブレット型パソコンの活用と読書のバランスを考えていく必要を感じている。国語の言語学習においても学年・指導時間数が少ないが丁寧に指導していく。	・言語能力の育成については、児童の発達段階に応じて、計画的に実施していく必要がある。読書活動については、年間計画の中に、「読書旬間」も入れているので、九小の読書活動が児童の豊かな心の育成につながることを期待している。また、ICT教育は進んでも豊かな読書活動は継続して欲しい。
		体験的な学習の充実	コミュニティ・スクールとして、地域の人材やボランティア、教材を活用した学習(毎学期)、体験的な学習を取り入れた授業実践	4	4	4	4	・年度初めに年間計画を立て、学習年間指導計画に沿って実施していく。今後も計画的に実施していくために見直しをもって各学年主任を中心に連絡や打ち合わせをしていく必要がある。	・体験活動については年間計画に位置付けてあり、どの学年でも確実に実施して豊かな学びとなっている。地域人材の活用も進み、ボランティア活動も協力的である。来年度も児童の体験活動をより充実させるためにコミュニティ・スクール協議委員が楽しみながら主体的に活動に関わってきたい。
徳	豊かな人間性の確立	けじめある学校生活	あいさつの励行、「九小の約束」の徹底、特別支援教育の視点に基づく指導、いじめ・不登校の未然防止、早期対応	3	3	3	3	・児童の様子を教員間で共有し、きまりを守ることを効果的に提示する等、具体的な対策をたてて継続的に指導していく。 ・いじめの早期発見に努め、対策委員会で共有、検討し、全教職員で対応にあたる。担任が抱え込まない職場づくりが大切である。	・校内でよく挨拶を交わしてくれる児童が多い。学校のきまりを守って生活することの良さを味わえる仕組を工夫するとよいのではないかと。どの児童も心身ともに元気で楽しい学校生活が送れるように教員は保護者と協力して子供をよく見守って欲しい。
		思いやりと感謝の心の育成	児童理解のための教員研修、縦割り班活動である「九小タイム」の充実、道徳授業の授業改善、代表委員会の「いいねカード」の取組	3	3	3	4	・教員の研修は児童の実態に合った内容を精査していく必要がある。学校生活の各場面で児童の姿を認めていくことが大切である。「九小タイム」もさらに充実していく。	・高学年の児童が低学年の児童を優しく見守りながら遊ぶ「九小タイム」の活動はとても良い。道徳授業の内容や代表委員会の「いいねカード」の取組の紹介をもっと地域に発信して欲しい。
		音楽・芸術活動の充実	音楽集会の充実、学級における音楽活動(毎月の歌)、図工作品の展示(展覧会)、日本の伝統文化を活かした活動		3		4	・連合音楽会や音楽集会の練習・本番では、最後まで協力して取り組むことができた。展覧会では、作品作りに集中し、片づけまで計画的に実施した。普段の教育活動から、音楽・芸術活動が充実できるよう計画・実践を行っていく。	・展覧会や音楽集会の取組を通して、情操教育が深まっていると感じた。児童がお互いに教室や廊下の作品を見合っている刺激を受けていると思う。次年度からは、状況にもよるが、地域にも公開して欲しい。
体	健康でたくましい心身の育成	食の教育の充実	体験的な食育の実践、栄養士・調理員との交流、「もぐもぐタイム」の実践	4	4	3	4	・個人差はあるが、量をあまり食べない児童への声掛けや残菜を減らすための給食委員会の取組が効果的である。引き続き、「もぐもぐタイム」の時間を確保し、バランスよく食べることや栄養について考えていくことを目指す。	・給食を通しての食育はとても大切なので、国分寺で採れた野菜について体験学習を実施していることで児童の意識も高い。バランスよく食べる事の意義を伝えて、少しでも偏食や小食を減らしていく努力を今後も続けてほしい。
		体力増進に向けた活動の充実	運動量の確保を目指す体育学習、大縄跳び、学級での休み時間の取組、外遊びの推進	3	3	3	3	・外遊び割当日に一部の児童が中休みに室内にいたことがあったので、継続的に声掛けをしていくこと、学級指導も併せてしていくことが大切である。引き続き、体力増進に向けて学校全体の取組も計画していく。	・体育や休み時間には元気に体を動かして、丈夫な身体となることがけがの防止にもつながる。学校全体で取り組む体育的な活動を次年度も計画して欲しい。
		児童の危機意識の向上	地域との連携を図る避難訓練、登下校訓練、定期的な安全指導朝会・安全点検、危機回避能力の育成	3	3	3	4	・低学年は視野が狭いため、登下校の仕方や歩き方、突然起こる危機回避能力にはまだ課題が残る。避難訓練は毎回、緊張感をもって実施し、地域でも活用できる訓練を計画していく。	・計画的に避難訓練が実施されているので、児童の危機意識も高いと感じている。低学年の視野が狭いことから起こる登下校中のけがや歩き方については、保護者にも伝えて注意を家庭でも促す取組が必要だと思う。